

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）  
第10回 支え合いバックアップ部会（B部会）記録

日時	平成31年1月22日(火) 13時15分～14時30分	場所	中清戸地域市民センター第2会議室
出席者	柳原部会長、星野副委員長、羽田委員、近藤委員 生活支援コーディネーター：原田、鍵和田 事務局：濱田 オブザーバー：社協実習生		
欠席	澁谷委員、村田委員、久世委員、森 CO、鈴木 CO、上垣係長		

1 前回振り返り

原田より議事録を用いて報告。別紙参照。

2 A部会の取り組みの共有

鍵和田より報告。2月に開催される本会において、A部会として提案ができるよう、①地域包括支援センターへのわかりやすい名称の活用に関する提案、②高齢者のこと110番プロジェクトの2点について議論を行っている。

包括の名称については、住民へ浸透を図ることを目的に「高齢者のこと110番」をキャッチフレーズとして活用する方向で確認済。高齢者のこと110番プロジェクトについては、提案に向けて更なる調整が必要となっている。

3 [避難行動要支援者登録制度]を通した見守りづくりについて

原田よりこれまでの議論を再確認。各自宿題となっていた項目について共有し、意見交換を行う。

◎ふれあい協力員について

濱田より報告。避難行動要支援者登録制度の要綱上、ふれあい協力員は避難支援者の位置づけとなっているが、ふれあい協力員の要綱上はそのような位置づけとなっていない。民生委員の退任後にふれあい協力員となる方も多いことから、年齢的にも難しいと考えられる。

◎シニアクラブについて

上垣係長より確認し、鍵和田より報告。シニアクラブの所管課である高齢支援課、シニアクラブの会長である久世委員に打診中。

- 民生委員は（75歳以上のひとり暮らしもしくは高齢者のみの世帯を訪問し）、避難行動要支援者の登録制度を紹介している一方で、地域包括支援センターでは80歳以上の高齢者を対象にアウトリーチを行っている。色々な取り組みが重なり、地域の方も混乱している。  
⇒担当部署が異なるが、横串を刺し、情報共有する必要があるのではないか。
- 友愛活動の定義が広く捉えられるようになり、友愛訪問以外にもシニアクラブの活動の幅が広がっている。ただし、個々に状況が異なると考えられるため、要支援者としての位置付けができるかどうかは、個々に状況把握を行う必要あり。
- 「防災」も人がつながるキーワードとなるが、「ゴミ捨て」も自然に人がつながることができるのではないか。ゴミ捨て場の清掃を近隣住民で協力して行うことができないかという思いから、自宅近くで自治会の設立を検討中。近隣には、体力的に難しい方もおり、助け合えたらと思っている。また、生活に密着した課題である「掃除」も、人をつなぐことができるのではないか。  
⇒現在、関係課やシニアクラブに対して確認中のため、次回以降も情報共有を継続する。

4 生活支援サービス提供団体のネットワークづくりについて

3/8(金) 10:00~11:30 中清戸地域市民センター第2会議室にて実施予定。生活支援COが作成した資料を用いて報告。実施案の概要についてお伝えし、開催の協力依頼を行った。

B部会からは現時点で濱田が参加予定。当日まで引き続きCOよりB部会委員の参加者を募る。

- 活動種別の違いから、参加を躊躇する団体もある。情報交換の様子を見てもらうことを目的にオブザーバー参加などの方法も検討中。
- 団体が作成しているパンフレットなどの資料があるとよい。団体同士がお互いに情報を持つことで、自分の団体では解決が難しくても、他の団体を紹介することで困りごとの解決につながることもある。困った事例やその対応策についても共有できるといいのではないか。
- また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所も、団体ごとの強みやサービス内容等の把握ができていない面もある。外に発信する視点を持ち、整理した情報を専門職とも共有できるといいのではないか。
- 有償の助け合いの仕組みであっても、業務内容はヘルパー業務のようになっている場合もあると聞いている。利用料や運用の流れは団体ごとに異なり、情報を把握することが重要。
- 立川市では、日常生活の困りごとを解決する仕組みとして「ちょこっとボランティア」という仕組みがあると聞いている。利用はすべて無償で、支援者は自分ができることや活動できる時間を登録。仕事帰りなど、自分に負担がない範囲で活動をすることができる。若い層の住民は、地域の地域包括支援センターとつながることのできる利点がある。
- 生活支援団体連絡会で情報交換が進むと、市内の既存団体では対応できない部分も見えてくると考えている。そうしたすき間の部分は、ボランティア・市民活動センターでもできることがあると考えており、意見のあった「ちょこっとボランティア」などの方法も考えられる。  
⇒現在、生活支援COが各団体に対するヒヤリングを行っている。ヒヤリングした情報をまとめ、各団体が他団体の情報を持ち帰ることができるよう調整中。  
⇒所属や立場が異なる中での情報交換なので、事前の情報収集やファシリテーション、参加しやすい雰囲気大切に考えている。ゆくゆくは、専門職との連携や情報発信の視点も持てるとよい。

## 5 空き家・空きスペースの活用について

鍵和田COより報告。地域活動を目的とした空きスペースの利用について、申込の流れや書類の内容など、仕組みの運用について清瀬市と協議中。法律への抵触や申込時の家族意向の相違など、トラブルやリスクを避けるために弁護士にも相談をしている。仕組み運用に向けて進捗があった場合には、再度報告を行う。

## 6 市内の人材バンク等の取り組みについて

担い手を登録する仕組み（人材バンク等）を持つ団体同士で共通の仕組みができないか、ボランティア・市民活動センターの星野委員より聞いた情報を共有後、意見交換を行う。

- 自身の特技を登録するという視点でいえば、仕組みを考えることはできるが、ボランティアと受け入れ先との関係性もあり、人材の共有ができるかは不明。
- 生活支援COで意見交換した際は、共通の仕組みをつくる場合には、生活支援COやボランティア・市民活動センター、生涯学習センターなど、システムの共有範囲を公的機関に限定し、徐々に福祉施設などにも広げていくべきではないかという意見があった。
- 人材を共有する上では、個人情報課題解決が必要。
- 学校支援本部やシニアクラブの活動は、それぞれの団体で課題解決できることもあれば、相互につながることで活動が充実することもあると考えている。人材バンクの立ち上げという切り口ではなく、団体相互の情報共有という形で、ボランティア・市民活動センターが各団体に呼びかけを行うこともできる。

⇒実施主体や内容は未定だが、担い手登録に関する取り組みを行う団体などの情報共有の場を設定することの重要性を全体で確認。実施の際は、生活支援 CO やボランティア・市民活動センター、各委員など、それぞれの強みを活かせる形での取り組みを検討する。

## 7 今後の開催予定

- (1) 次回 2月18日(月) 13:30~14:30 健康センター 第1・2会議室  
 次々回 3月26日(火) 13:15~14:39 中清戸地域市民センター第2会議室

## 9 宿題リスト

	宿題	やる人	期限
①	以下の事項を市担当部署内で確認。 (1) シニアクラブ会員を「避難支援者」に位置付けられるか (2) シニアクラブを避難行動要支援者登録制度の情報提供先に追加できるか	市福祉総務係(上垣)	2/18 進捗報告
②	以下の事項をシニアクラブ関係者間で確認。 (1) 友愛訪問を行っているシニアクラブ会員が、避難行動要支援者登録制度の「避難支援者」として協力できるか (2) 協力可能なシニアクラブが明確になった場合、各クラブの担当に連絡を行えば、避難支援者の調整が可能か	久世委員	2/18 進捗報告